

社会福祉法人京都障害者福祉センター 定 款

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して、総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

第二種社会福祉事業

- (1) 身体障害者福祉センター事業の経営
- (2) 障害福祉サービス事業の経営
- (3) 障害児通所支援事業の経営
- (4) 一般相談支援事業の経営
- (5) 特定相談支援事業の経営
- (6) 障害児相談支援事業の経営
- (7) 移動支援事業の経営
- (8) 身体障害者の更生相談に応ずる事業の経営
- (9) 知的障害者の更生相談に応ずる事業の経営
- (10) 介護保険法に基づく訪問介護事業の経営

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人京都障害者福祉センターという。

(経営の原則等)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

- 2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を京都市南区吉祥院西定成町35番地に置く。

第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名以上10名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員の選任・解任委員会において行う。

- 2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、事務局員1名、外部委員1名の合計3名で構成する。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員が出席し、かつ賛成することを要する。

(評議員の任期)

- 第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。
- 2 任期満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。
 - 3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了または辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

- 第8条 評議員に対して、各年度の総額が100万円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

第3章 評議員会

(構成)

- 第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

- 第10条 評議員会は、次の事項について決議する。
- (1) 理事及び監事の選任又は解任
 - (2) 理事及び監事の報酬等の額
 - (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
 - (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
 - (5) 定款の変更
 - (6) 残余財産の処分
 - (7) 基本財産の処分
 - (8) 社会福祉充実計画の承認
 - (9) その他の評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

- 第11条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3カ月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

- 第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。
- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議

員会の招集を請求することができる。

(議長)

第13条 評議員会に議長を置く。

- 2 議長は、その都度評議員の互選で定める。
- 3 議長の議決権は、可否同数のときの決定権として行使する。

(決議)

第14条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上にあたる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第16条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することにする。

- 4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第15条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名が、前項の議事録に記名押印する。

第4章 役員及び職員

(役員の定数)

第16条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 6名以上9名以内
 - (2) 監事 2名
- 2 理事のうち1名を理事長とする。
 - 3 理事長以外の理事のうち、1名を常務理事とする。
 - 4 前項の常務理事をもって社会福祉法第45条の16第2項第2号の業務執行理事とする。

(役員の選任)

第17条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第18条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、常務理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

- 3 理事長及び常務理事は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

- 第19条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。
- 2 監事は、いつでも理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

- 第20条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。
- 2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。
 - 3 理事又は監事は、第16条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

- 第21条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。
- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
 - (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

- 第22条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

(職員)

- 第23条 この法人に、職員を置く。
- 2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。
 - 3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

第5章 理事会

(構成)

- 第24条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

- 第25条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。
- (1) この法人の業務執行の決定
 - (2) 理事の職務の執行の監督
 - (3) 理事長及び常務理事の選定及び解職

(招集)

- 第26条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(議長)

第27条 理事会に議長を置く。

2 議長は、その都度理事の互選で定める。

3 議長の議決権は、可否同数のときの決定権として行使する。

(決議)

第28条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第29条 理事会の議事については、法令の定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第6章 資産及び会計

(資産の区分)

第30条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産及び公益事業用財産の3種とする。

2 基本財産は、次に掲げる財産をもって構成する。

(1) 現金 1,300,000円

(2) 京都市伏見区西大黒町1035番14、所在の京都いたはし学園菓子工房敷地(74.84㎡)

(3) 京都市伏見区西大黒町1035番地14(家屋番号1035番14の2)、所在の鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき3階建 京都いたはし学園菓子工房 建築物1棟(114.39㎡)

(4) 京都市伏見区榊形町435番1、所在の京都市ふしみ学園分室、生活サポートセンター「とらい」及びグループホームふしみ寮敷地(306.08㎡)

(5) 京都市伏見区榊形町435番地1(家屋番号435番1の1)、所在の木造セメントかわらぶき2階建 京都市ふしみ学園分室 建築物1棟(180.52㎡)

(6) 京都市伏見区榊形町435番地1(家屋番号435番1の2)、所在の木造セメントかわらぶき2階建 生活サポートセンター「とらい」、放課後等デイサービス「らいと」及びグループホームふしみ寮 建築物1棟(204.54㎡)

(7) 京都市南区上鳥羽高島町29番、所在の洛南障害者デイサービスセンター「あすなろ」敷地(462.80㎡)

(8) 京都市南区上鳥羽高島町29番地(家屋番号29番)、所在の鉄骨造セメントかわら・合金メッキ鋼板ぶき2階建 洛南障害者デイサービスセンター「あすなろ」建築物1棟(477.87㎡)

(9) 京都市伏見区鍛冶屋町964番、964番1及び同区丹波橋町919番、所在のグループホームふしみ寮(鍛冶屋町)敷地(168.99㎡)

(10) 京都市伏見区鍛冶屋町964番地及び964番地1(家屋番号964番)、所在の木造かわらぶき2階建 グループホームふしみ寮(鍛冶屋町) 建築物1棟(142.42㎡)

(11) 京都市山科区東野中井ノ上町1番17、所在の京都市東野障害者福祉センター敷

地（786.76㎡）

- (12) 京都市山科区東野中井ノ上町1番地17（家屋番号1番17）、所在の鉄骨造陸屋根3階建 京都東野障害者福祉センター・デイサービス棟（デイスポット「楽」、放課後等デイサービス「すてーじ」及び生活サポートセンター「ほっと」） 建築物1棟（1,025.89㎡）
 - (13) 京都市山科区東野中井ノ上町1番地17（家屋番号1番17の2）、所在の木造合金メッキ鋼板ぶき2階建 京都東野障害者福祉センター・グループホーム棟（共同ホーム「あんど」） 建築物1棟（260.86㎡）
 - (14) 京都市伏見区醍醐辰巳町7番1、7番10、7番13、39番1、39番2及び56番、所在の京都市だいが学園分園敷地（480.91㎡）
 - (15) 京都市伏見区醍醐辰巳町7番地1、7番地10、7番地13、39番地1（家屋番号7番1の2）、所在の木造合金メッキ鋼板ぶき2階建 京都市だいが学園分園 建築物1棟（392.10㎡）
- 3 その他財産は、基本財産及び公益事業用財産以外の財産とする。
 - 4 公益事業用財産は、第38条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する財産とする。
 - 5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

（基本財産の処分）

第31条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、京都市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、京都市長の承認は必要としない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

（資産の管理）

第32条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。
- 3 前項の規定にかかわらず、基本財産以外の資産の現金の場合については、理事会の議決を経て、株式に換えて保管することができる。

（事業計画及び収支予算）

第33条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、法人の事務所に当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（事業報告及び決算）

第34条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表

- (4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）
 - (5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
 - (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。
- 3 第1項の書類のほか、次の書類を法人の事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を法人の事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。
- (1) 監査報告
 - (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
 - (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
 - (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第35条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第36条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第37条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

第7章 公益を目的とする事業

(種別)

第38条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、利用者が尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

- (1) レスパイトサービス事業
 - (2) 居宅介護従業者養成研修事業
 - (3) 京都市伏見社会福祉総合センター管理
 - (4) 京都市山科合同福祉センター管理
- 2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

第8章 解散

(解散)

第39条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第40条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人

のうちから選出されたものに帰属する。

第9章 定款の変更

(定款の変更)

第41条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、京都市長の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を京都市長に届け出なければならない。

第10章 公告の方法その他

(公告の方法)

第42条 この法人の公告は、社会福祉法人京都障害者福祉センターの掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(責任の免除)

第43条 理事又は監事が任務を怠ったことによって生じた損害について社会福祉法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、社会福祉法人法第45条の20第4項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第113条第1項の規定により免除できる額を限度として理事会の決議によって免除することができる。

(施行細則)

第44条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長		豊	田	慶	治
常務理事		蟹	江	廣	吉
理	事	福	富	敬	治
	々	高	山		弘
	々	須	川	信	道
	々	今	西	義	行
	々	石	田	俊	治
監	事	安	田	行	雄
	々	林		次	郎

附 則

- 1 この定款は昭和59年4月1日から施行する。
- 2 この定款は平成4年4月1日から改正施行する。
- 3 この定款は平成5年4月1日から改正施行する。
- 4 この定款は平成6年9月1日から改正施行する。
- 5 この定款は平成7年12月13日から改正施行する。
- 6 この定款は平成9年11月11日から改正施行する。
- 7 この定款は平成10年8月28日から改正施行する。

- 8 この定款は平成 11年 4月 1日から改正施行する。
(評議員の任期の特例)
- 9 平成 10年 9月 3日に選任された評議員の任期は、平成 12年 5月 31日までとする。
(施行期日)
- 10 この定款は平成 12年 4月 1日から改正施行する。
- 11 この定款は平成 12年 10月 1日から改正施行する。
- 12 この定款は平成 13年 1月 1日から改正施行する。
- 13 この定款は平成 13年 4月 1日から改正施行する。
- 14 この定款は平成 14年 6月 1日から改正施行する。
- 15 この定款は平成 14年 10月 1日から改正施行する。
- 16 この定款は、平成 15年 4月 1日から改正施行する。
- 17 この定款は平成 15年 6月 1日から改正施行する。
- 18 この定款は平成 15年 10月 1日から改正施行する。
- 19 この定款は平成 16年 4月 1日から改正施行する。
- 20 この定款は平成 16年 12月 1日から改正施行する
- 21 この定款は平成 17年 10月 1日から改正施行する。
- 22 定款第 9条の規程により理事会が定める事項は、次の事項とする。
- (1) 経理規程の一部改正について
 - (2) 資産運用規則の一部改正について
 - (3) 公印管理規程の一部改正について
 - (4) 文書管理規則の一部改正について
 - (5) 職員就業規則の一部改正について
 - (6) 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について
 - (7) 非常勤職員就業規則の一部改正について
 - (8) 各施設運営規程の軽易な事項の一部改正について
 - (9) 苦情解決要綱の一部改正について
 - (10) 個人情報管理規程の一部改正について
 - (11) 緊急を要する 500万円以下の予算専決処分について
- 23 この定款は京都市長の認可の日（平成 18年 11月 29日）から改正施行する。
- 24 この定款は京都市長の認可の日（平成 20年 2月 7日）から改正施行する。
- 25 この定款は京都市長の認可の日（平成 23年 1月 21日）から改正施行する。
- 26 この定款は京都市長の認可の日（平成 23年 5月 9日）から改正施行する。
- 27 この定款は京都市長の認可の日（平成 24年 4月 27日）から改正施行する。
- 28 この定款は京都市長の認可の日（平成 24年 11月 22日）から改正施行する。
- 29 この定款は京都市長の認可の日（平成 25年 11月 29日）から改正施行する。
- 30 この定款は京都市長の認可の日（平成 26年 7月 18日）から改正施行する。
- 31 この定款は京都市長の認可の日（平成 26年 9月 2日）から改正施行する。
- 32 この定款は京都市長の認可の日（平成 27年 3月 2日）から改正施行する。
- 33 この定款は京都市長の認可の日（平成 27年 5月 25日）から改正施行する。
- 34 この定款は京都市長の認可の日（平成 28年 2月 3日）から改正施行する。
- 35 この定款は京都市長の認可の日（平成 28年 3月 30日）から改正施行する。
- 36 この定款は京都市長の認可の日（平成 28年 7月 12日）から改正施行する。
- 37 この定款は平成 29年 4月 1日から改正施行する。
- 38 この定款は京都市長の認可の日（平成 29年 7月 24日）から改正施行する。

- 39 この定款は京都市長の認可の日（平成29年12月28日）から改正施行する。
- 40 この定款は京都市長の認可の日（平成30年12月11日）から改正施行する。
- 41 この定款は京都市長の認可の日（平成31年4月1日）から改正施行する。
- 42 この定款は京都市長の認可の日（令和5年2月7日）から改正施行する。